

第一日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

その他の日曜日
教会学校 9:00～
聖書を読む会 9:00～
主日礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2019 (平成31年) 4. 14

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

聖書と祈り会
毎週水曜日 10:30～
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「神の正義を学ぶ」

牧師 松谷 祐二

創世記 第十八章一七～二三節

主は言われた。「わたくしが行おうとしていることをアブラハムに隠す必要があるか。アブラハムは大きな強い国民になり、世界のすべての国民は彼によって祝福に入る。わたくしがアブラハムを選んだのは、彼が息子たちとその子孫に、主の道を守り、主に従って正義を行うよう命じて、主がアブラハムに約束したことを成就するためである。」主は言われた。「ソドムとゴモラの罪は非常に重い、と訴える叫びが実に大きい。わたくしは降って行き、彼らの行跡が、果たして、わたくしに届いた叫びのとおりかどうか見て確かめよう。」その人たちは、更にソドムの方へ向かったが、アブラハムはなお、主の御前にいた。

怒りにならずに、もう少し言わせてください。もしかすると、そこには三十人しかいないかもしれませんが。」主は言われた。「もし三十人いるならわたしはそれをしない。」アブラハムは言った。「あえて、わが主に申し上げます。もしかすると、二十人しかいないかもしれませんが。」主は言われた。「その二十人のためにわたしは滅ぼさない。」アブラハムは言った。「主よ、どうかお怒りにならずに、もう一度だけ言わせてください。もしかすると、十人しかいないかもしれませんが。」主は言われた。「その十人のためにわたしは滅ぼさない。」主はアブラハムと語り終えると、去って行かれた。アブラハムも自分の住まいに帰った。(新共同訳聖書)

神に背き、神の祝福を祝福とも思わない人間、そのせいで歪んでしまった世界を回復し、救うために、神は思い切った計画をお立てになりました。本来は全世界に与えたいと願っている神の祝福を、当面、敢えて一人の人に集中させることになったのです。選ばれたその人、その子孫、その民が、祝福を受けると共に、神の言葉に聞き従って生き、神に依り頼む人こそ幸いなることを示す生きた見本、「祝福の源」となるためでした。この使命のために選ばれたのがアブラハムです。

神はこの場面で、ソドムとゴモラという、繁栄してはいるが、住民の邪悪さ、罪深さで悪名高い二つの町に使いを派遣し、調べた結果がその通りならば、罰として町ごと滅ぼそうとされています。神はそれをアブラハムに告げるにあたり、こう前置きをされました。「わたくしがアブラハムを選んだのは、彼が息子たちとその子孫に、主の道を守り、主に従って正義を行うよう命じて、主がアブラハムに約束したことを成就するためである。」

「アブラハムとその子孫が「祝福の源」となるために、わたしの行おうとすることを前もって開示し、この機会にわたしの正義を学ばせよう、そういうお考えのようです。

アブラハムはしかし、このお告げを受けるや、神の考えに異を唱えました。「まことにあなたは、正しい者を悪い者と一緒滅ぼされるのですか。あの町に正しい者が五十人いるとしても、それ

も滅ぼし、その五十人の正しい者のために、町をお赦しにはならないのですか。…」そのようなさり方が、神の正義でしょうか、とアブラハムは大胆にも問うのです。神は意外にもすんなりと譲歩されず。「もしソドムの町に正しい者が五十人いるならば、その者たちのために、町全部を赦そう。」しかし、アブラハムは不安になったのでしようか。正しい者がもし四十五人しかいなかったら、四十人、三十人、二十人、十人しかいなかったら。「その十人のためにわたしは滅ぼさない。」こうして、対話は終わりました。

この後ソドムとゴモラの町がどうなったかは、実際に聖書を手にとってお読みください。それにしても、このアブラハムと神の「交渉」のような場面は、何を伝えたいのでしょうか。「もし正しい者がいるならば、その者たちのために、町全部を赦す。」神の「正義」とは、そもそもこういう考え方なのだ、ということだと思います。一部の正しい者のゆえに、悪い者も一緒にいることが分かっていながら、全体を赦す。それは、悪い者も悪いままで容認するということではありません。悪い者ではなく、悪を願って、本来なら下されてしかるべき罰を差し控えることです。

悪い者がいても、正しい者のゆえに全体を赦す。実はこれは、この世界に対する神ご自身の姿勢です。悪しき世界に見切りをつけて滅ぼすことは簡単です。しかし神は、アブラハムとその子孫を選んで「正しい者」として育て、そこから神の祝福が広がっていくまで、罪と悪に汚された世界に、忍耐強く向き合って行こうとされます。それが、この神の「正義」なのです。「交渉」を通して、アブラハム自身そのことを学んだのです。

しかし、その人たちの存在ゆえに、全世界が神に赦されるに足る、そんな「正しい者たち」が、本当にいるのでしょうか。ユダヤ人がそうなのでしようか。キリスト教会、キリスト教徒がそうなのでしようか。キリストの正義が行われるためには、真に「正しい者」がいなければならぬのですが…。ここにこそ、神の独り子イエス・キリストが、十字架にかからなければならなかった理由があるのだと思います。

型紙のない子育て

千野 節子

私は学校卒業後、幼稚園で働いている時に色々な子ども、お母さんたちと出会う中で、自分でも結婚して子どもを育てることになったら、誰々さんのお母さんのようにいつも笑顔で子どもに理解のあるお母さんになりたいと思ったり、誰々ちゃんのようにみんなと仲良く遊べて思いやりのある子に育ってほしいと、自分の都合の良いイメージを貯金のように頭の中に詰め込んでいました。

そして、結婚して最初の子どもが生まれた時は、育児日記を張り切って毎日つけ、母乳で育て、自分の中で完璧な子育てを目指して数々の育児書を暇さえあれば読んでいましたが、ある日、「型紙のない子育て」という一冊の本に出会いました。今、書いた冒頭の文章そのままです。自分と全く同じだ！と思い、一気にその本を読みました。

それまで授乳時間まで日記に事細かく記入していたのですが、それにいったい何の意味があるのか？自己満足に過ぎないことに時間と費やすのをやめて、しっかりと子どもと向き合おうとこの時思ったのです。自分の中で子どもをどう育てるかを決めすぎていたことも大きな反省です。

それから、何事も自分ではなく、我が子にとつてどうなのかを第一に考えるように努めました。子どもたちの反抗期も、もちろんありました。でも、親の都合を押し付けない。子どもに言う前に自分はどうなのかを常に振り返りました。子どもに「ママって、勉強しなさいって言わないよね。」と言われる。それは、自分が言われて嫌

だった事は子どもには言わないようにしている、ただそれだけです。他のお母さんと違うと、そこだけは褒められます。

二人の子どもも成人して、親離れた自由な毎日を送っています。この春大学三年になる息子が春休みに「ひとり旅に行ってくる」と行き先を言わないまま出かけ、一週間して帰って来たら、ヒッチハイクで京都、大阪の関西方面へ出かけ、ネットカフェや簡易宿泊所に泊まったとの事。正直、驚きました。小さい時は人見知り強く、新しい環境になかなか馴染めず、潔癖な所がある子だったので、この二年間、親元から離れて、地方で一人暮らしを経験して、大きく変わったのでしょうか。逞しく成長した息子に、親の役目は終わったと思いました。そうかと思えば、引きこもりの子どもを持つ友人もいます。その子は小さい頃から優等生で親の言うことを何でも聞いて、思春期の時も反抗期がなかったと聞いています。今になって「おまえがそういうふうに育てた。」と言われて辛い日々を過ごしているようです。

思えば、あれこれ考えても人生、自分の都合の良いようにはなりません。全ては御心のままだと、最近つくづく思うこの頃です。

報 告

*三月十日、眞野裕子姉妹が教会学校教師として任職されました。お働きを主が祝福してくださいませようお祈りします。

*当教会で礼拝に出席してこられた大石敦己さんが、受洗準備に入ることを志願されました。主のお導きをお祈りします

*南部坂幼稚園では、三月十三日(水)に卒園式、十四日(木)に終園式が行われ、

三学期が終了しました。

*三月十日(日)午後、西南支区総会が行われました。生原美典支区長、北川正弥副支区長、川村尚弘書記が新たに選任され、常任委員十二名の半数が改選されました。

*各献金(イースター献金、東京神学大学後援会献金、隠退教師を支える運動、神学生を支える献金、会堂建築献金、オルガン献金)へのご協力を、引き続き宜しくお願いします。

《各部報告 三月度》

成人会

日時 三月十七日午後一時半～三時
場所 会議室
出席者 六名
開会祈祷 鈴木晋兄
内容
ゼカリヤ書一章から八章を全員で輪読し、各自感想を交換し松谷牧師の解説を伺った。

・エルサレムに帰還した人々は神殿再建の工事を始めるが、廃墟の中の再建であり、人々の士気は低い。予言者ゼカリヤは人々に「神に立ち返れ、そうすれば神も帰って下さる」と励ます。

次回予定 三月三十一日。ゼカリヤ書九～十四章。マラキ書一～三章。
司会 下奥敏子姉
閉会祈祷 黙祷

婦人会

日時 三月二十四日 主日礼拝後

場所 教会堂会議室

出席者 八名

開会祈祷 菊池才知子姉

閉会祈祷 全員順次小祈祷

内容

一、聖書研究「サムエル記 上」

九章、十章

前章の経緯で、軍事力の強いペリシテ人による襲撃を継続的に受けていたイスラエル人たちは見えざる神を信奉し、助力を祈願して攻撃に備える戦法に飽き足りなくなり、戦陣に立って戦いを指揮する王を切望するようになった。神はサムエルにこれを容認するようにと言葉を与えた。

九章 ベニヤミン族のキシユには眉目秀麗、容姿端麗にして衆に優れた体格の息子サウルがいた。主はサムエルに、サウルに油を注ぎ、イスラエルの民の指導者にするように。彼が神の民をペリシテ人から救う。と告げていた。サムエルはサウルを敬待した。

十章 翌朝、サムエルはサウルに油を注ぎ、主が彼を民の指導者にされたこと告げ、この後の行動を指示する。サウルは神の霊を受けて預言する状態になった。様々な経緯をたどりくじ引きで、立派な体格のサウルは王として民に歓迎された。

次回 五月二十六日「サムエル記 上」十一章～十二章まで
二、来年度愛餐会 愛餐会奉仕分担グループの再編成を協議及び決定
三、愛餐会会計報告
四、愛餐会会計から東京神学大学へ献金を決定、金額一〇、〇〇〇円献金者名義は「南部坂教会婦人会と有志」とする。

五、婦人会会計から「にじの家信愛荘」へ献金を協議。